



「モダン空間」

東京都 崎田 憲一
(撮影地：東京都港区)

【撮影者のコメント】

このトンネルは片面が柱で夏の夕方になると影が格子状に現れます。その影がアーティスティックでパブリックアートとともに芸術的空間を演出しています。まさにおしゃれの街にふさわしいアート空間の楽しさに浸ることができるのです

講評

光と影の世界がとても幻想的で、一番手前に浮かび上がる少年のシルエットが印象的です。つま先が上がった漫画的な一瞬を、見事に捉えています。画面全体のリズム感が物語性を生み出しており、記憶に残る作品です。
(八馬審査委員長)

子供の影と前方に女性の日傘をさした姿。その先にも人らしい人物を捉えており、左の壁に写る水遊びの絵画のようなものも相まって、奇妙で謎めいたシーンになっています。「モダン空間」と題した作品名が何やら芸術的で面白い作品です。
(初芝審査委員)

柱の影が心地よいリズムをつくっており、手前の人影や壁の絵もふくめてアートポスターのようになっている。何でもない街なかにもこのような印象的な風景を見出し、切り取ったところが素晴らしい。
(真田審査委員)

連なる柱だけでなく手前に映るひと影にしたことで騙し絵のようになり、より不思議な作品になったのではないかと思います。異空間に迷い込んだようで、写真の面白さが伝わります。
(三友審査委員)

光が生む影の造形が非常に印象的な写真で、人物よりも影が主役となり、コミカルな人物の動きが静けさの中に視線を奥へと導く効果を生み、他の作品とは一味違う面白さを醸し出す良い作品です。
(野本審査委員)



「大屋根リングに上がる花火」

兵庫県 川口 勉
(撮影地：大阪府大阪市)

【撮影者のコメント】

大阪・関西万博の大屋根リングの全体像は会場の中からは捉え切れないので、近くのビルの展望台から俯瞰で写しました。華やかさを出すために、花火が打ち上がる日を選んで撮影に望みました。

講評

盛大な花火、万博会場、そしてコンテナヤードのバランスが印象的です。大阪万博が埋立地で行われていた事実を端的に示しつつ、華やかさの背後で港湾物流という日常が確かに機能していることを、色鮮やかに捉えています。
(八馬審査委員長)

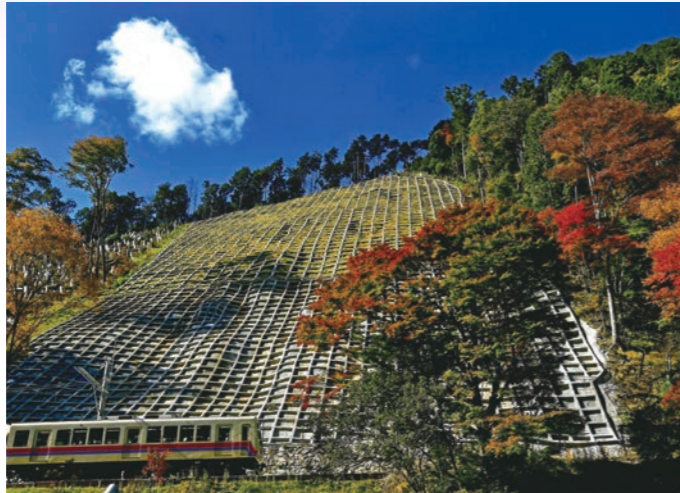
大阪・関西万博の成功を祝うが如く、大輪の花火が大屋根リングを一層引き立てた見事な作品です。この時期にしか撮れない貴重なシーンを、余計な物は入れずに、夜景とハイアングルに拘って表現した作品は大成功です。
(初芝審査委員)

大阪万博の大屋根リングという2025年を象徴する風景。万博会場が海に面した工業地帯の埋め立て地に、仮設的につくられたこともよく理解できる。と同時に、工場夜景も含めてとても美しい写真になっている。
(真田審査委員)

まさに2025年を象徴する一枚です。万博の大屋根リングや花火もさることながら、手前に見える港湾施設のコンテナも含めた暖色系の色彩が黒く映った海に映える作品です。
(三友審査委員)

暗い海と夜空を背景に、色鮮やかな花火が見事なアクセントとなり、さらには大屋根リングや港湾施設のオレンジやブルーが人工的な輝きを放ち、花火との絶妙なコントラストをなす見事な作品です。
(野本審査委員)

特別賞



「京都洛北の秋」
大阪府 金岡 明光
(撮影地：京都府京都市)

【撮影者のコメント】

2020年7月に発生した土砂災害で、叡山電鉄が1年半運休、2021年11月に人々の努力で開通、復旧工事が完成。今は京都観光に地元にかかせない工事になった。

講評

快晴の青と紅葉の様々な色が鮮やかに調和し、秋の豊かな色彩を捉える中に、人工的な法面の構造物の無機質な灰色が、不思議なバランスを保っています。そして走る列車の存在が動きと視線を奥へ導く効果が見事です。



「北国の温水路」
宮城県 八木 英雄
(撮影地：秋田県にかほ市)

【撮影者のコメント】

島海山の融雪水を活用する「生活の知恵」に驚き。農業を支える土木の力も感じ入りました

講評

島海山からの雪どけ水を温めるという機能のため昭和初期に作られた階段状の水路である。それをこうして美しい写真として切り取ることで、機能を果たすだけでなく「地域の風景になる」という土木構造物の役割を改めて思い出させてくれる。

特別賞



「整然の空間」
北海道 佐藤 信一
(撮影地：北海道千歳市)

【撮影者のコメント】

JR千歳駅ホームの下は整然とした空間だったのです。駅の駐輪場を一度も利用したことがない私ですが、たまたま連絡通路から階下の駐輪場へ行くドアを開けた時に目に飛び込んだのが、ホームの重量を支え強い地震にも耐え得るように設計された柱や梁の構造であり、一方で数えきれないほどの台数の自転車が枠内にきちんと収まっている状態でした。その二様の整然性が存在する空間に美を感じ撮影した一枚です

講評

高架下の駐輪場という、何でもない空間、しかもどちらかというと機能に特化した空間に面白さを見出した着眼点が面白い。コンクリートの柱が浮き立って、整然とした様子が強調された印象的な作品である。



「共に生きる」
神奈川県 川原田 健司
(撮影地：東京都西多摩郡奥多摩町)

【撮影者のコメント】

水の流れ、光の具合、ダムの中で息づく緑が切なくきれいで撮影した。ダムの中に魚が通る用の道があることを知ったときは驚くとともに自然への敬意を感じた。

講評

河川の落差がある箇所に設けられた魚道の一部を切り取った着眼点が光ります。逆光で浮かび上がる水の流れと幾何学的なコンクリート、そこにひっそりと貼り付く緑が呼応し、「共生」を強く感じます。本コンテストならではの印象深い作品です。

特別賞



「両壁迫る切通しトンネル」
奈良県 笠井 忠
(撮影地：千葉県富津市)

【撮影者のコメント】

明治から大正に掘られ、昭和初期に鑿山の石切の技法を用い、地元住民により切下げられた高さ約10mの手掘りのトンネルです。写真はトンネル部分ですが、切通し部分を含めた総延長は100mほどあり、大きく斜めに伸びる房総石の模様と削り跡が芸術的で、両側から迫るダイナミックな壁面に圧倒されました。この日は生憎の雨模様でしたが、光が差し込むと陰影が変化するようにです。

講評

他の作品にない芸術作品の如く、トンネル内の今や自然の輝きで存在感を放っている。明治～大正の年代を経た手掘りの美しさを今に伝えており、両壁を中心に捉えて巨大なスケール感を見事に引き出している。



「美しき裏技」
兵庫県 平野 史孝
(撮影地：大阪府大阪市)

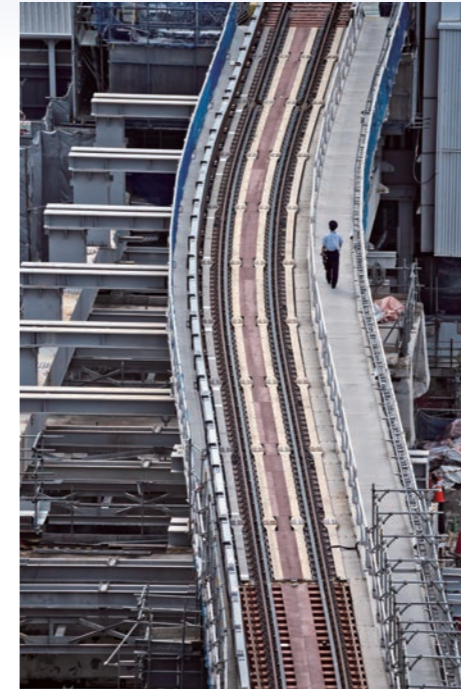
【撮影者のコメント】

天神橋は浪花の三大橋と親まれ、なにわの夏の風物詩・天神祭の船渡御は、この天神橋あたりから出船します。3連の軽快な鋼製アーチが印象的ですが、実は橋桁を支える橋裏のデザインも魅力的。夕日を浴びて、より美しさが際立っていました。

講評

日の沈む前のわずかな時間に捉えた、橋りょうの桁裏の美しさに改めて気づかされる作品です。下から見上げたことで交通量の多さが隠れ、より美しさが際立ったのではないかと思います。

特別賞



「未来へ続くレール」
神奈川県 岩田 総司
(撮影地：東京都渋谷区)

【撮影者のコメント】

渋谷の再開発現場を望遠レンズで撮影した一枚です。この日は休日だったため工事はしていませんでしたが、近くのスクランブル交差点の人混みとは対照的に、無骨で人がいない工事現場がある中、未完成のレールの端を駅員さんが歩いている後ろ姿が、これからの未来を表現しているようでした。

講評

渋谷の再開発現場を題材に、線路をテーマに未来の発展を想像させる作品です。作者は駅員が線路の傍らを歩く姿を捉え、線路と人影だけで渋谷街と対照的な未来の発展を思い描こうとしていると想像します。



「空にかける橋」
奈良県 竹下 剛
(撮影地：京都府綴喜郡宇治田原町)

【撮影者のコメント】

空に向かって一本の道を作っているように見えて人間ってすごいと感じました。

講評

まるで空に向かって架けているように見えるアングルで撮影された作品です。高架橋の先端の鉄筋まで映り、緻密な工程を重ねて高速道路がつながるのだと改めて感動しました。

特別賞



「夕焼けの羽田空港」
神奈川県 原 裕延
(撮影地：東京都大田区)

【撮影者のコメント】
羽田空港第一ターミナル展望デッキからの、第三ターミナルとシルエット富士山の夕景です。夕焼けの時間は短いですが、冬の空気が澄んでいる時期には綺麗に見ることができます。

講評
夕暮れ時のオレンジ色のグラデーションが空全体に広がり、富士山をシルエットとして際立たせ、空と滑走路の青や緑の誘導灯が見事なコントラストを生んでいる。さらに繊細なガラス張りのターミナルビルの光が素晴らしい作品に仕上がっています。



「取水塔が生み出した芸術」
北海道 奥谷 忠浩
(撮影地：北海道空知郡南富良野町)

【撮影者のコメント】
日本初のフローティングタイプの取水塔が生み出した、早春のダム湖面に現れた芸術的な造形に感動しました。

講評
取水塔周辺の水流と温度差によって生じる氷の模様を、美しく捉えた作品です。エンジニアリングが生み出す見えないメカニズムが、淡く差し込む光によって静かに浮かび上がり、自然と人工の関係性を見事に伝えています。

[入賞作品マップ]





グリーンインフラ 特別賞

趣旨・目的

成熟社会を迎えた我が国では、経済成長だけでなく、自然豊かで良好な環境で健康に暮らすことができる社会を求める価値観の劇的な変化が起きています。これからの時代、人が自然とより良く関わることのできる緑と水の豊かな生活空間を形成することが、さらに求められていくと考えます。

一方で、気候変動に伴う自然災害の頻発・激甚化、人口減少・少子高齢化の進展に伴う管理放棄地など様々な課題への対応が必要となっています。

「グリーンインフラ」とは、自然環境の持つ多様な機能を賢く利用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組みであり、地域が抱える様々な課題への対応策の一つとして国土形成計画(国土交通省)等に盛り込まれた取組みです。また、グリーンインフラの推進は、SDGsの目標達成にも貢献するものと期待されています。

そこで、より多くの人々にグリーンインフラの取組みを知ってもらい、取組みの社会的普及を目的として、「グリーンインフラ特別賞」を設置しております。

なお、本賞の選定にあたっては、グリーンインフラ官民連携プラットフォーム、企画・広報部会にご協力を頂きました。

グリーンインフラ官民連携プラットフォーム

グリーンインフラ官民連携プラットフォームは、多様な主体の積極的な参画及び官民連携により、社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用したグリーンインフラを推進し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりにつなげることを目的に、2020(令和2)年3月19日に設立されました。

グリーンインフラ特別賞



「夕照の大屋根リング」

大阪府 廣瀬 靖之

(撮影地：大阪府大阪市)

【撮影者のコメント】

大屋根リングは、「多様でありながら、ひとつ」という会場デザインの理念を表す大阪・関西万博会場のシンボルとして、日本の神社仏閣などの建築に使用されてきた伝統的な技術である貫接合と現代工法を組み合わせで建築されました。世界最大の木造建築物としてギネス世界記録に認定されています。大屋根リングから見る夕日がとてもきれいだと言われ、この日も大変大勢の人達が夕景を楽しんでおられました。

講評

2025年を象徴する大屋根リングは、国内産木材を活用した建築と暑熱対策と快適性を両立させ、多様な植栽も設けられ、グリーンインフラの可能性を表現している。万博後も持続可能な都市デザインのレガシーとして、自然素材と環境配慮を融合させた先進的モデルを後世に伝える写真である。



「野面積み棚田」

福岡県 百瀬 可達

(撮影地：佐賀県唐津市)

【撮影者のコメント】

唐津市にある藤野の棚田は、山城を連想させる「野面積み」で、高さは8.5mで日本一の高さです。

講評

先人が築いた野面積みの石垣が今も棚田を支え、桜と菜の花が彩る春の日本らしい風景である。その土地に根差した自然と共生する農業技術・防減災技術がグリーンインフラの原点を示している。この景観を後世に継承することの価値を問ひかけるメッセージ性のある写真である。

第12回 **建コン**
フォト大賞Jr.
“土木施設”を探せ!

当協会では、フォトコンテストを通して小学生・中学生・高校生みなさんに土木施設の重要性と建設コンサルタントについて知っていただくために、2013(平成25)年度よりフォトコンテスト「建コンフォト大賞Jr.」を開催しています。2025(令和7)年度(第12回)も「土木施設を探せ!」をテーマに募集を行い、220名の小学生・中学生・高校生から応募をいただきました。厳正な審査の結果、ジュニア最優秀賞1点、ジュニア優秀賞2点、ジュニア特別賞10点を選定しましたので、その作品を紹介します。

ジュニア最優秀賞



「バットレス式の傑作。丸沼ダム」

栃木県 佐々木 夢叶
栃木県立栃木農業高等学校
(撮影地：群馬県利根郡片品村)

ジュニア優秀賞



「光る道」

岡山県 李 昕灿
朝日塾中等教育学校
(撮影地：タイ王国バンコク)



「帰路に現る巨大橋」

東京都 西田 真彬
穎明館高校
(撮影地：東京都府中市)

ジュニア特別賞



「歴史感じる木造の歩道」
静岡県 笹原 夢紡
静岡県立富岳館高等学校
(撮影地：静岡県島田市)



「海の上の大きな働く橋」
静岡県 木村 星南
沼津中央高校
(撮影地：北海道北斗市)

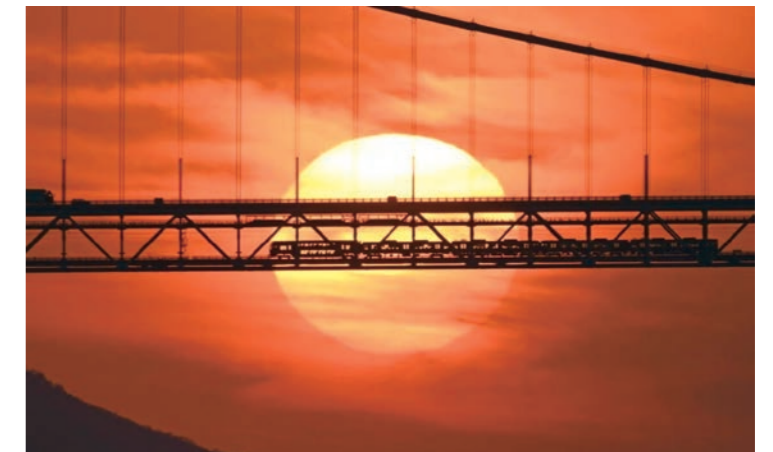


「廃線跡の、トンネルで。」
山梨県 青柳 匠馬
山梨県立甲府東高等学校
(撮影地：山梨県甲州市)

ジュニア特別賞



「光速道路」
大阪府 大原 篤樹
大阪府立四條畷高等学校
(撮影地：大阪府大阪市)



「だるま夕陽と大橋」
兵庫県 多田 悠太
西宮市立西宮高校
(撮影地：兵庫県神戸市)



「ダムの上に」
山梨県 古屋 幸太
山梨県立甲府東高等学校
(撮影地：長野県松本市)

ジュニア特別賞



「都市を染める帰路」

群馬県 岡部 桜雅
ぐんま国際アカデミー高等部
(撮影地：アメリカ合衆国マサチューセッツ州ボストン)



「風」

千葉県 渡邊 伶
千葉県立長生高等学校
(撮影地：秋田県秋田市)

ジュニア特別賞



「道みちミチ michi」

神奈川県 東目 夕海
神奈川県立相原高等学校
(撮影地：神奈川県足柄下郡箱根町)



「橋の要」

静岡県 佐野 太亮
星陵高等学校
(撮影地：山梨県南巨摩郡南部町)